



The Association of Liquid Filtration and Purification Industry

LFPI News Letter

Winter 2018 No.82

LFPI の継続・発展のために必要なこと



20周年を迎えるに際し、大矢名誉顧問をはじめ設立よりLFPIの発展に尽力されてきた皆様に感謝いたします。無の状態から100社を超える企業を会員にするためのご苦労はただならぬものであったかと、皆様の熱意と実行力に敬意を表したいと思います。

さてこの大役を引き継いでいる現在の幹事会では、長岡会長の掲げる「技術」「交流」「教育」に「産学共同」を加えた4本柱のビジョンで運営しています。メンバーとして若手が加わった一方で、シニアのアドバイザーの方にも参加して頂き、以前にも増して活発な意見が交わされるようになりました。さらに「会員が十分にそのメリットを享受できるよう具体化する」という方針の下で、新たに「研究企画委員会」と「産学共同委員会」を設

立し、アウトプットを意識した活動を行っています。

研究企画委員会では岩田委員長の下、会員の関心が高かった事例集を作成するために、第1弾『膜分離』、第2弾『固液分離Ⅰ 凝集/沈降・浮上/粒状層ろ過』の書籍が発行間近であり、次いで『固液分離Ⅱ ろ過/脱液/遠心分離』の発行準備を行っています。産学共同委員会では大塚委員長の下、リクルート企画である「LFPI合同企業説明会」を実施し、協力会員の先生の研究室をはじめとする学生と会員企業をつなぎ、毎年10数名の採用が実現しています。しかし新たな委員会を発足させ、より盛会になると期待していましたが、現実には甘いものではなく、会員数が16期(134社)をピークに前期末では123社に減少してしまいました。また行事への参加者の「のべ数」が前期で210社318名でしたが、参加が20%程度の方に集中傾向にあります。つまり常連様が多く、新しいお客様が参加されていない状況です。魅力的な行事を行っているつもりでも、会員の皆様に、広く伝えることができていないのではと、伝え方も課題と感じています。

工業会も企業と同じで、これからも継続し盛会とするためには、顧客満足度を上げていくことに尽きると思います。LFPIの顧客とは会員企業です。会員企業の満足度を上げていくためには現在の活動のカイゼンと新規事業の創出が必要です。そこで継続的にLFPIの未来を語り、中期ビジョンを検討し、実行するため、改めて「ネクストビジョン検討会」を行う運びとなりました。メンバーには理事・幹事会社を中心に選出いただき、またユーザー会員にも参加いただきたいと思います。共に語っていただける有志の方がいらっしゃったら事務局までご連絡ください。

今期の幹事会の目標は、LFPIをピークの状態にすることです。具体的には会員数135社以上、行事参加者のべ230社400名です。そのために現在の行事についてもお伝えする工夫を行うこと、そして初めての方でも参加しやすい環境も整備していきたいと思っております。これからも魅力的な会づくりを行いますので、見守るだけでなく、ぜひ委員会にも参画いただき、イベントにも多くご参加いただきますようお願いします。

株式会社トーケミ

細谷卓也

第21回総会報告

2017年10月10日、ヨコハマプラザホテルにて第21回定時総会が開催された。総会参加者は48名、委任状提出者27名で、定款の定める定足数の5分の1を満たしており、総会成立が確認された。

総会は議事次第によって下記の通り進行した。

1. 第1号議案(第21期事業年度の収支決算報告の件)
2. 第2号議案(役員改選の件)
3. 第3号議案(第22期事業年度の行事内容及び予算承認の件)
4. 第4号議案(表彰、その他)

各議案につき、報告及び計画案などが発表され、すべての議案が承認された。

第3号議案の承認に先立って、代表幹事をはじめとして各委員会の委員長による報告があり、これまでの委員会活動の内容、これからの活動方針や目標などがスライドを使用してわかりやすく説明された。

今回の表彰は会社・団体が、株式会社アースプロテクト、株式会社環境向学、伸栄化学産業株式会社の3社、個人が、和氣坂弘二(ダイワボウプログレス株式会社)、高山鉄也(株式会社アースプロテクト)、松田直樹(大塚実業株式会社)の3名であった。以上をもって総会は終了した。

総会後の特別講演では、農研機構食品研究部門の植村邦彦氏による「電気(交流電界)によるミニマムヒーティングプロセス」の題で、最新の食品の熱殺菌についてのお話があった。通常加熱殺菌に比べ、加熱時間の短縮、食品の色や香り・栄養成分の保持、高品質な食品加工が可能な「連続通電加熱」の紹介で、加工品を扱う企業にも有益な内容であった。講演後も活発な質問が多く、大変有意義な講演会となった。

講演会終了後、交流会がヨコハマプラザホテル14Fのレストラン、ルフアールにて、和気あいあいとした雰囲気の中で行われた。

LFPI事務局長 柚木 徹



総会風景



表彰を受けた団体・個人

(左から) 伸栄化学産業(株)、(株)環境向学、(長岡会長を挟んで)、高山鉄也氏 (株)アースプロテクト / 個人・会社とも表彰)、和氣坂弘二氏 (ダイワボウプログレス株式会社)、松田直樹氏 (大塚実業株式会社)



講演会



植村邦彦氏



各委員会からの活動報告

LFPI 20年の歩み

昨年設立20周年を迎えた会の歩みを振り返りました。

1997

- 4月 日本液体清澄化技術工業会設立
- 10月 第1号ニュースレター発行
※2017年10月現在まで81号発行
- 10月 第1回定時総会(ヨコハマプラザホテル)
※現在まで20回開催
- 11月 第1回見学講演会
(韮崎市浄水施設、桜エンドレス(株)(現エンドレスハウザーPC山梨(株))
※現在まで19回開催



1998

- 2月 第1回講演会「清澄化技術とISO1400」(ヨコハマプラザホテル)
- 8月 初雑誌掲載:『化学装置』8月号(「液体清澄化技術の新潮流」)
※現在まで14回雑誌掲載
- 12月 第1回基礎講座「液体清澄化技術概論」(日本ミリポア(株))
※現在まで7回開催



1999

- 2月 LCA(Life Cycle Assessment) シンポジウム開催(ヨコハマプラザホテル)
- 12月 LFPIホームページ開設



2000

- 5月 第1回会員交流会(横浜国立大学)
※現在まで9回開催
- 5月 初海外視察
「第26回ACHEMA視察と欧州液体清澄化技術動向調査」(ヨーロッパ)
- 10月 2000年記念シンポジウム(湘南国際村センター)
※シンポジウムは以後4年に1度開催

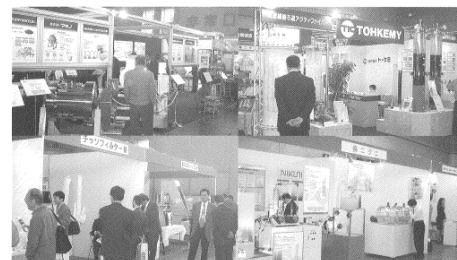


2001

- 5月 第1回基礎実験講座「液体の分離・清澄化技術基礎実験講座」(横浜国立大学)
※現在まで17回開催
- 10月 台湾視察「日・台液体清澄化技術交流会」

2002

- 9月 中国視察(上海、北京の企業および学術研究機関)



2003

- 4月 「液体清澄化技術展 2003」の開催
(名古屋市中小企業振興会館吹上ホール)
- 11月 青年部会発足(ヨコハマプラザホテルにて設立会)

2004

- 3月 第1回技術講座
「水環境対策の課題と処理技術 ～有害無機イオンを中心として～」
(ヨコハマプラザホテル)
※現在まで5回開催
- 4月 米国視察「世界濾過会議、最新技術動向調査」
(ニューヨーク、ロサンゼルス、ニューオリンズ)
- 6月 第1回青年部会主催講座
「中小企業のための特許の戦略的活用方法」(ヨコハマプラザホテル)
※現在まで31回開催(見学会含む)
- 10月 2004年シンポジウム「液体清澄化ビジネスの展望と革新」
(湘南国際村センター)
- 10月 初書籍出版
『ユーザーのためのフィルターガイドブック(糸巻き・不織布編)』
※以後9回出版



2006

- 7月 第1回基礎技術講座「若手技術者のためのコミュニケーション技術」(ヨコハマプラザホテル)
※現在まで10回開催
- 10月 創立10周年記念シンポジウム(ルポール麹町)
- 10月 『身近な“液体”Q&A』出版
- 11月 10周年記念インド視察(アンナ大学、液体清澄化関連企業)

2007

- 3月 10周年記念技術講座「液体清澄化技術10年のレビューと今後の展望」(ヨコハマプラザホテル)
- 6月 国際交流委員会講演会「中国水産業の実情'07」(ヨコハマプラザホテル)
※現在まで2回開催
- 9月 第1回環境と経済分科会主催見学会(大阪)
※以後3回開催
- 11月 『INCHEM TOKYO 2007』出展(東京ビッグサイト)
※以後2009、2011に出展

2008

- 4月 ホームページリニューアル、ニュースレターPDF化配信開始
- 9月 中国視察(IFAT CHINA、上海学術機関、企業)
- 10月 第3回シンポジウム「液体清澄化技術の新たなステージへ」
(スコーレプラザ箱根)



2009

- 4月 中国視察(北京/研究機関、浄水場、展示会ほか)
- 8月 中国視察(北京、天津、宜興、蘇州、上海、中国膜工業協会)

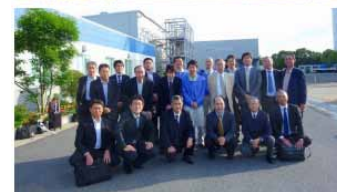


2010

- 2月 技術委員会関西ワーキンググループの発足
青年部会とのコラボによる見学会・基礎技術講座開催
「大阪における水道の歴史と高度浄水処理」
※現在まで3回開催
- 2月 「Inter Aqua 2010」出展(東京ビッグサイト)
※以後2015年まで毎年出展
- 4月 中国水ビジネス支援セミナー開催(ヨコハマプラザホテル)
- 7月 日中水処理技術・膜技術及び応用シンポジウム(東京四ツ谷主婦会館エフプラザ)
- 10月 環境・エネルギー委員会設立

2011

- 5月 第1回環境・エネルギー委員会主催講演・見学会
「環境・エネルギー問題を見据えた企業理念と事業展開を語る」
(日本リファイン(株)千葉工場)
※現在まで4回開催
- 5月 中国視察(蘇州、上海)



2012

- 2月 東南アジア視察(シンガポール、ベトナム、マレーシア)
- 5月 第1回LFPI先端技術セミナー「震災を経て考える『新』水技術」(かながわ労働プラザ)
※現在まで2回開催
- 10月 第4回シンポジウム
「グローバル化する液体清澄化ビジネス -水ビジネスの世界戦略と人材育成-」(東京・台場)

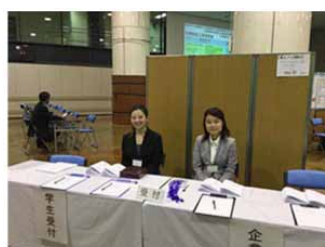
2013

- 6月 「FOOMA JAPAN 2013」(国際食品工業展) 出展
(東京ビッグサイト)
- 7月 第1回技術者養成セミナー関東開催(かながわ労働プラザ)
※現在まで4回開催
- 7月 第1回技術者養成セミナー関西開催(大阪府立大学工学部)
※現在まで3回開催
- 9月 ネクストビジョン検討会発足
- 10月 「食品開発展 2013 出展」(東京ビッグサイト)



2014

- 4月 第1回合同企業説明会(東京都立産業貿易センター)
- 6月 LFPI会員企業の上海交流会
(中国・上海 伸栄化学産業株式会社、上海交通大学)
- 11月 第1回 LFPIフェスティバル
～ビジネスマッチング&合同企業説明会～
(東京都立産業貿易センター)
※現在まで4回開催





2015

6月 ドイツ視察 (ACHEMA2015、ドイツ・フランクフルトメッセ、ケルン総合下水処理場)



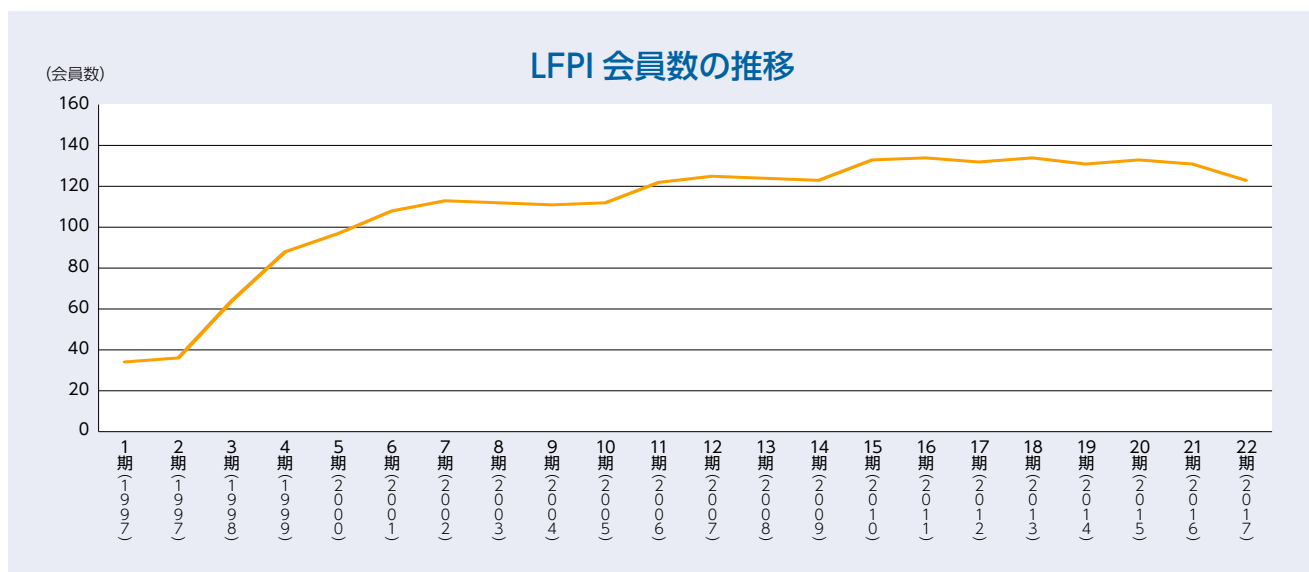
2016

4月 台湾視察 (世界濾過会議、企業、研究所)
10月 第5回シンポジウム「中部エリアが誇る先端技術」
(レセプションハウス名古屋通信会館)



2017

4月 LFPI20周年記念行事 (ヨコハマプラザホテル)
4月 『水処理・濾過プロセスにおける防汚と洗浄』出版
8月 海外情報セミナー「日本企業の海外展開事情」
(日本大学理工学部)



〈報告者：広報委員会〉



委員会だより

総務委員会

株式会社ニクニ 河内 智邦

主な活動

私たち総務委員会は、メンバー2名+アドバイザー1名の計3名で活動しております。

主な活動内容は、日本液体清澄化技術工業会の運営に関わる会計、財務、組織についての規約、規則の制定および管理となります。具体的には、会の運営に関わる事項が現状に合わないとき発案を行ったり、理事会・幹事会で協議された内容を新規約として作成したり、既存の規約を見直したりしております。また改正時の来歴リストの作成・管理や、理事会・幹事会等で決定した内容を箇条書きにし、幹事に配布して認識の統一を図っています。

■ 現在ある規約

①定款 ②入会金および会費に関する規定 ③委員会規定 ④支出規定 ⑤収入規定 ⑦慶弔規定
⑧表彰規定 ⑨文書保存規定 ⑩出版に関する規定 ⑪共催、協賛等の名義使用に関する規定 ⑫著作権規定

いま課題として取り組んでいる事

今期より、新たに総務委員会に入らせて頂いたため、まだ右も左も解らない状況であり、また私自身、営業職という事で、規約・規定には知識が乏しい状況です。

少しずつではございますが勉強を重ねて行きまして、総務委員長として恥ずかしくないような知識を持って、会の中でも積極的に発言をしていけるようになりたいと思っております。

委員会PR

メンバーの年齢差は20歳ほどありますが、お互いに言いたいことを言える関係です。規約・規定にかかわる業務を普段されている方、またそういった事柄に興味をお持ちの方、委員会メンバーを募集しております。是非、会の骨組みとも言える規約・規定と一緒に作り上げていきましょう。



総務委員会メンバー



＜言葉の定義の大切さ(ろ過精度について)＞

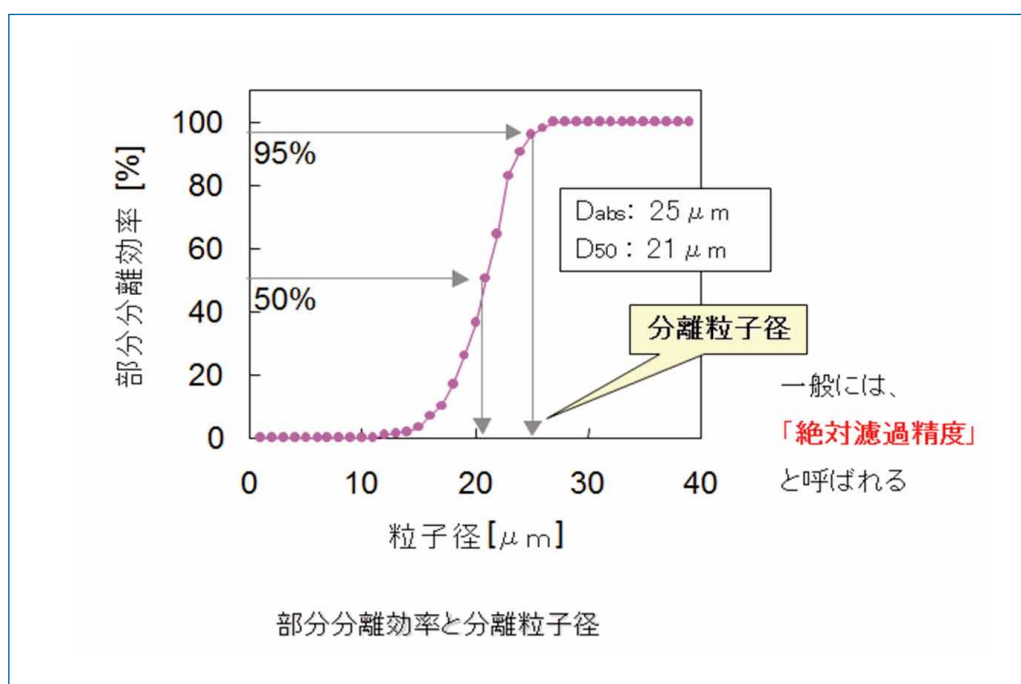
フィルターの性能を表す言葉の一つに、「ろ過精度」があります。たとえば、ろ過精度が10ミクロンと言え、10ミクロンの粒子を除去できるフィルターであると理解されます。ところが、このろ過精度については、評価方法や用語の定義が統一されていないため、多くの誤解を生み、しばしばトラブルも生じています。

実際のろ過は、ある粒子径を境にして、それよりも大きい粒子は100%除去し、それ以下の粒子は100%通過させるというものではありません。そこで、ろ過試験から得られた部分分離効率曲線(下図参照)において、部分分離効率がある値以上を示す粒子径をろ過精度と称します。メーカーによっても異なりますが、とくに部分分離効率が95~99%を示す粒子径を「絶対ろ過精度」と呼ぶことが多いです。ところが、このろ過精度はろ過条件によって容易に変動するので注意が必要です。

たとえば、粒子濃度がおおよそ1vol.%以上になると、ろ材上に捕捉粒子層(ケーキ)が形成されて、そのケーキにより粒子が除去されるケーキろ過になります。この場合、ろ材の細孔径よりも小さな粒子も除去できます。言い換えると、同じろ材であっても、粒子の濃度や凝集・分散状態、ろ過の操作条件などにより、除去できる粒子の大きさは変わります。このため、ろ過精度を評価するには同一条件下でろ過試験を行わねばなりません、各フィルターメーカーによって試験条件は異なります。同じ10ミクロンと称するフィルターでも実は性能が異なるという場合もあるので、フィルターメーカーを変更する場合には、事前に十分に確認する必要があります。

また、「精度」という言葉は、本来はバラツキの大きさを意味するものです。すなわち、高精度という、バラツキが小さくて個々の値がほぼ揃っている状態のことです。したがって、分離できる粒子の大きさを表す正しい表現としては、ろ過精度ではなく、「分離粒子径」とすべきです。

とは言うものの、業界で長年使われてきた「ろ過精度」という言葉を、ある日突然なくすことはできません。言葉を正しく理解した上で、適切に使い分けることが重要だと言えます。



情報アレコレ

広報委員会がちょっと調べてみました(その2)

第8回

(オリンピックとワールドカップ)



今年は世界的なスポーツの祭典が2つ開催されます。それは2月に開催される平昌冬季オリンピックと6～7月に開催されるFIFAワールドカップロシア大会です。どちらも世界的に注目される大会ですが、平昌オリンピックは102種目の競技で争うのに対し、FIFAワールドカップはサッカーという1種目の大会で比較すべきものではないのですが、あえて比較してみることにしました。

まず決定的な違いとしてオリンピックは個人対個人の競技であるのに対し、ワールドカップは国対国の競技であるということです。オリンピックは「スポーツを通して人間育成と世界平和」を目的としており、その結果称えられるのは個人であり国ではありません。実は国別メダル数を競うという考え方も否定されています。一方ワールドカップはどこかの国のサッカーが最強かを競います。しかし国の誇りをかけて戦うため、メキシコ大会予選のホンジュラスとエルサルバドルのように、試合の遺恨から実際の戦争に突入してしまった悲しい例もあります。またオリンピックでも西側諸国、東欧諸国がそれぞれボイコットしたモスクワ大会とロサンゼルス大会のような負の歴史もあります。

オリンピックは夏季31回冬季23回を数え、ワールドカップは21回を数えるいずれも歴史ある大会です。開催国はオリンピックでは特に決まりがあるわけではなく立候補国の中から選ばれ、夏季オリンピックの地域別開催数は欧州：19回、北中米：6回、アジア：3回、オセアニア：2回、南米：1回で、アフリカを除くすべての地域で行われています。一方ワールドカップは欧州：11回、南米：5回、北中米：3回、アジア：1回、アフリカ：1回となっています。開催国は第6回大会から第16回大会までは欧州とアメリカ大陸の交互の開催となっていました。第17回大会(日韓共催)からは6大陸ローテーションという

ことになりました。しかし開催条件も厳しく立候補国が少ない大会もあったことから、現在では近辺2大会開催国以外の大陸となっています。2022年には中東のカタールでの開催が決まっています。夏は最高気温が45℃以上になる灼熱の地で本当にサッカーができるのでしょうか？

世界のスポーツの祭典といわれるオリンピックでは多くの国と地域が参加します。一昨年のリオオリンピックでは206の国と地域が参加し、4年前のソチ冬季オリンピックでは88の国と地域が参加しています。オリンピックでは国内オリンピック委員会を持つ全ての国と地域から1名以上参加できる権利があるので、リオでは全ての国と地域が参加したことになります。さすがオリンピックですね。ワールドカップの参加国は32か国と決められていますが、これは本大会に出場できる数で、FIFAに加盟している209の国と地域から予選免除の開催国を除き208の国と地域で予選を行います。

ところでオリンピックは206なのにワールドカップは209?なぜでしょう?この原因はイギリスのサッカー事情にあります。イギリスでは「イングランド」「スコットランド」「ウェールズ」「北アイルランド」の4つのサッカー協会がありそれぞれが代表チームを持っています。この4つの協会はFIFA創設(1904年)の40年以上前からあることやサッカーはイギリス発祥のスポーツであることから別の地域として認められています。

では盛り上がり方はどうでしょう? オリンピックもワールドカップも世界中に放映されますが、その延べ視聴者数はオリンピックが190億人、ワールドカップは330億人といわれます。経済効果に関してはその国の経済事情にもよりますので比較は難しいですが、2014年にワールドカップ、2016年にオリンピックと立て続けに開催したブラジルの経済効果は約7兆円であったとされています。2020年の東京オリンピックの経済効果を25～30兆円と試算する学者もいますが、はたして我々国民の生活は豊かになるのでしょうか？

とにかくスポーツ観戦好きの私は今年が楽しみで仕方ありません。皆様も今年一年、たくさんのスポーツを楽しんでください。

(メルテックス株式会社 初川 拓朗)



私たちも頑張ってます!

～若手社員の仕事風景～

メルテックス株式会社



“文化および言葉の障壁を越えて、
日本と海外の技術の架け橋になりたい”

技術開発部 アティカ ビンティ ジャスニ
(Atiqah Binti Jasni)

私はメルテックス株式会社の外国人社員の一人です。当社は、表面処理薬品会社で、プリント配線基板をはじめ電子部品、一般および半導体用めっきに使用される薬品を開発、提供しております。私は2008年に日本から約5,000km離れたマレーシアから来ました。マレーシアは日本と違って赤道に近いため、基本的には1年中365日夏です。日本の技術力は世界一と知られており、高校卒業後日本の技術を学ぶために日本へ留学しにきました。そして、日本とマレーシアやインドネシアなど東南アジア国々の技術と社会の架け橋になりたいと思い、大学卒業後日本で働くことを決意しました。

入社してすぐに社会人の基本を身につけるためにビジネスマナー研修を受けました。そこで、あいさつ、名刺交換や電話対応など学びましたが、研修で学んだことを実践に移すのはなかなか難しかったです。緊張と敬語の正しい使い方に慣れていないため電話対応や顧客と名刺交換時に苦労していました。さらに、「文化および言葉の壁」だけではなく「専門知識の壁」もあり最初の頃は職場環境になかなか慣れませんでした。しかし、上司や職場の先輩方々が丁寧に仕事を教えたり話しかけたりいただいたおかげで仕事を覚えるようになり、そして、職場環境にも馴染むようになりました。

現在は技術開発部ESG応用技術開発課の一般チームに所属し、一般めっき用の製品開発や顧客からの依頼試験を中心に行っております。一般めっき用薬品は金属およびプラスチック素材に美観を与え、耐食性を高めるためのめっき薬品です。例えばカメラなどの精密機器、バンパー、ホイールなどの自動車部品やボタン、ファスナーなどの装飾部品などあらゆる分野で使用されております。そして、当社は金、銀、銅、錫、ニッケル、クロムなど幅広く取り揃えており、お好みの光沢具合や色調を提供しております。

今まで、先輩社員と一緒に一般めっき用無電解ニッケルめっきの開発に関わる仕事をやりました。めっき薬品を開発する時に稼働時における適正な濃度範囲や不純物の混入に強い組成を開発しなければなりません。そして、顧客の要望に応えるめっき薬品を開発するために何回も実験を繰り返しました。顧客にとって最高の製品を開発することはいかに難しいかと実感しましたが、お客様のニーズに応える製品を開発できた瞬間に仕事にもっと頑張りたい気持ちを感じました。

今年は社会人3年目となり、新入社員の頃と比べ顧客からの依頼試験は一人で任せていただけるようになりました。一人で仕事をやることはチームで仕事を進めていくと比べて1から10まですべて自分でやらなければなりません。一人で仕事を進めていく上で仕事に自信を持つようになりました。その上、一人で仕事をする上で、自分で時間を管理しなければならないのでタイムマネジメントスキルも身につくようになりました。

現在の業務は、日本国内のお客様を中心に製品開発や依頼試験を行っておりますが、将来的には海外のお客様と関わる仕事をしたいと考えています。めっき技術についてわからないことがまだまだありますが、いっぱい経験を積んで将来日本との技術の架け橋になりたいと考えています。



私たちも頑張ってます!

～若手社員の仕事風景～

富士フィルター工業株式会社

“製品設計の仕事にやりがい
安心して暮らせる社会の実現に
貢献したい”

第1工場技術部 後野 達哉



当社は、高精度産業用フィルターと、フィルターシステムの開発・設計・製造・販売を一貫して行うフィルターの総合エンジニアリング会社です。その技術を生かし、自社製品における環境貢献を常に意識し、お客様に満足して頂ける製品を創り出すとともに、サービスの提案、提供を通して、私たちと次世代を担う子供たちが安心して暮らせる社会の実現、社会の持続的発展に向け継続して取り組んでいます。

以前私は大学で環境分野の研究室に所属しており、新規分離膜の開発というテーマで研究を行っていました。その関係でLFPIの企業説明会に参加する機会があり、そこで富士フィルター工業を知ったことが入社のかっけです。大学で学んだことを少しでも仕事に生かしたい、物を作る仕事をしたいと思っていたので魅力を感じ、入社しました。

入社後、最初の3か月は仕事の全体像をつかむために各部署で研修を受け、その後、希望していた技術部に配属されてエレメントを設計するチームの一員となりました。このチームではお客様ごとにオーダーメイドで製品を設計するので、必然的に自社製品に触れる機会が多くなり、自社製品について多くの知識を得ることができました。

そして今年度からは、エレメントを使用するための圧力容器の設計を行うチームへ異動になりました。要求された運転条件を満たすためにJISやASMEなどさまざまな規格に沿って容器の設計を行います。各規格についての勉強や、海外のお客様が増えたことで英語でのやり取りが以前と比べて多くなるなど日々苦勞していますが、一つ一つの仕事を経験するなかで設計に関する規格などの知識が増え、少しずつ自分のスキルも上がっていると実感することができるので、とてもやりがいがあります。

入社してもうすぐ2年になりますが、まだまだ分からないことばかりで勉強の毎日です。この先3年、4年と進むにつれ、徐々にできることを増やしていけるように努力していこうと思います。

追悼記事

2017年10月13日、当会会員であるエニーテック株式会社の古川俊夫様が逝去されました。

古川様は、LFPI最初のユーザー会員として入会され、行事の開催など委員としての活動はもとより、講演会の講師、分科会の設立提案、海外視察の企画など、会の活動に広く関わり多大な貢献をされました。これまでの活動に改めて敬意を表するとともに、心よりお悔みを申し上げます。

古川俊夫氏 略歴

(1974年 金沢大学大学院修士課程修了)

1974年 4月	キッコーマン(株)入社	2008年 6月	キッコーマン(株) 退職
	食品工学をベースとした研究開発に従事	2008年 6月	(有)エニーエンジニアリング 入社
	生産本部エンジニアリング担当部長	2009年 3月	エニーテック(株) 設立
2008年 3月	博士(工学) 横浜国立大学		代表取締役

古川俊夫氏との30年の思い出

LFPI顧問／横浜国立大学名誉教授 松本 幹治

古川氏との最初の出会いの時期の詳細は忘れてしまいましたが、食品膜技術懇談会(MRC, 現：食品膜・分離技術研究会)での活動を通じてでした。1990年ごろと思われます。従って、LFPIには設立後、ユーザー会員として最初に入会していただきました。

LFPIの活動では各種行事に積極的に参加され、必ずと言ってよいほどの確で建設的な質問や発言をされ、打てば響くが似合う人物でした。頭の回転が速く、発せられた言葉に素早く多弁に応答するので“瞬間湯沸かし器”という異名もありました。また、「環境と経済」あるいは「環境とエネルギー」分科会などの時代が要求している分科会の設立を提案するなど、LFPIにとって大変貢献されました。

古川氏はキッコーマン時代から海外事業に関心があり、海外視察等にも積極的でした。LFPIに入会してから私と同行した海外視察には以下のものがあります。1999年6月にカナダのトロントで開催されたICOM99(国際膜学会)に参加するために朝枝茂氏(当時、エニーエンジニアリング代表)らと北米を回ったことが最初です[LFPINews Letter No.9]。その他、大連膜分離研修会[No.19]、10周年記念インド視察ツアー[No.38]など、旅行中、常に好奇心旺盛で、一緒にいるだけで楽しく、元気をもらえる人でした。

古川氏は社内における研究蓄積を学位論文にすべく、私の研究室の社会人過程博士として入学し、学術論文をJournal of Membrane Science に投稿し、2008年3月末に「醤油製造工程におけるクロスフロー膜濾過システムに関する研究」で工学博士の学位を取得されました。しかしながら、2008年6月にキッコーマン社を退職し、2009年3月に朝枝氏の企業名を引き継ぐエニーテック(株)を設立し、念願の会社経営を行われました。会社設立後は顔を紅潮させながら日本全国を日々忙しそうに立ちまわっておられたが、無理がたたったのか突然病気になるられました。

30年近く公私ともに付き合ってきた古川氏が事業半ばで亡くなられたことは、彼にとっても、LFPIにとっても、私にとっても残念であるとともに、大変寂しいことでもあります。今でもときどき彼が酒を飲みながら、活発に持論を展開している光景を思い出します。

最後に、いつも輝く存在であった古川氏に対して感謝の念と共にご冥福をお祈りいたします。

追悼記事

亡き古川さんを偲んで

特別会員 矢野 政行

我が素晴らしき友、古川さん！ここに心より哀悼の意を捧げます。祈り続けてきた一縷の回復の希望も断ち切れ、俺には無念さだけが残っている。思えば、君とはLFPI発足の直後に松本先生の紹介で、夕方横浜国大のカフェテリアでビールを飲みながら歓談した時が最初の出会いだったね。初対面から、言い草に少し不躰なところがあって、ムツと思うこともあったけど、開けっ広げな、言ってみれば天真爛漫さと君の人懐こい笑顔に接して良き間柄になれる予感が俺にはあったよ。その後直ぐに君はLFPIに入会し、幹事会、技術委員会、各種行事を通して、予想通りお互いにウマがあったんだね、個人的にも何でも言える間柄になったね。

何のてらいもなく自分の引き受けた英文記事の翻訳を無理矢理頼んできたり、君には興味ある情報収集のため嫌々付き合わされたりと、8歳も年上の俺にはその厚かましさに閉口することもあったよ。しかし、社会的な人間関係が疎遠になって、自由時間を持て余している俺に刺激を促して、外部と接触する機会を作ろうとしてくれていることが次第に分かり、君は本当にいい奴だと再認識させられたよ。同時に、君の創造性に富む積極果敢な行動を頼もしくも、何かしでかすのではと、ハラハラしながら“ヤンチャな弟”をみる兄貴のような気持ちで俺が見ていたことを分かっていたかな。

さて、LFPIの行事はもとより個人的にも君とは数多くの行動を共にしたね。LFPIのインド視察旅行では、アンナ大学での意気揚々とした君の英語講演や女子大生との笑顔一杯の交流、蛇づかいの壺から逃げ出したコブラを見ての爆笑を誘うひょうきんな挙動など脳裏に焼き付いているよ。

自慢げに話したくなる体験としては、カリマンタン島の鬱蒼とした熱帯樹林の奥にある原住民の住むロングハウス(長い高床式住居)を訪ねたことだね。歓迎儀式の後、住人十数人と車座になって、我々が献上した子豚や鶏の塩ゆでを食べ、濁り酒を交わす宴席で、その種族の頭飾りを着けて君がキテレツな踊りを披露し大喝さいを受けていたシーンも忘れられない思い出だ。

地熱発電所見学と称して青森の我が家から、四駆車で雪道を走り、岩手県の山深い里にある松川温泉(地熱発電所が隣接)を訪ねた時は、雪景色を眺めながら、温泉に浸かり、君とさしでしみじみ美酒を味わう珍しい体験もしたね。そして、4年前のLFPI見学会で青森県の六ヶ所村を訪ねての帰りだ。三沢駅の改札口で、互いに笑顔で手を振って別れたが、それがとうとう君との今生の別れになってしまった…。長い間良き友でいてくれて本当にありがとう。

古川さん！ゆっくりと静養してくれ、いつかそちらでまた会おう！ 合掌



タージマハルでお茶目な古川さん



インドの女子大生に囲まれてご満悦

編 集 後 記

LFPI会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。本年もNews Letterの御愛読よろしくお願い申し上げます。さて今年の干支は戌戌(つちのえのいぬ)です。陰陽五行の思想では戌も戌も「土」の性質を持ち、この「土」は変わり目を意味します。今年は「土」の性質が重なり合って勢いを増していると考えられるため、2018年は大きな変革の年ということかもしれません。一方、商売の歴史を紐解くと、現在のロングセラー商品は戌年に発売開始したものが多く、例えば1958年にはファンタ(日本コカ・コーラ)、ユニ(三菱鉛筆)、1970年にはトミカ(トミー)、ほんだし(味の素)、1982年にはおっとと(森永製菓)、1994年にはウイダーinゼリー(森永製菓)などがあります。LFPI会員企業様からもこの戌年にたくさんのロングセラー商品が誕生しますよう、広報委員一同お祈り申し上げます。

〈メルテックス株式会社 初川 拓朗〉